

かじ わら あき こ
梶原 暁子さん (39歳)
営農地:うきは市浮羽町
主な農産物:モモ、スモモ、
ブドウ、カキ、クリ



「就農も生活も初めての場所だった」 夫婦の共同による果樹経営

● 就農のきっかけ

果物がたくさん食べられると思ったから

「私は結婚してから夫の就農にあわせて仕事をしてきたので、有意義な話はできないと思います。夫は結婚前から農業をするのが目標だったので、その人と結婚して就農しただけなの。」と控えめな口調が会話の始まりでした。しかし、以前のお仕事などを聞いたところ、「東京の農業系の学校で畜産科を卒業してから、動物園の飼育員をやっていました。」と、もともと農業が好きだったようです。「夫は福岡県の非農家出身で、うきは市に就農を決めました。私は関東出身で福岡県は初めての場所だけだとなんとかなるだろうと楽観的でした。」と梶原さんは当時を思い出されていました。

● 私の今～就農後の道のり～

夫婦の話し合いによる経営方針

梶原さんは借地で果樹園を増やしていったとのこと。開始当初の話では、「就農してから、2年程度は樹が小さく収穫はほとんどなかったため、近所の観光農園で働かせてもらってました。収入の少ない時期だったので、すごく助かりました。」「独身のときに海外旅行に行こうと思って貯金していましたが、生活費になってしまいました。」収入が短期間で増えないのが果樹経営の特徴のようで、年々、面積も収量も増えていったようです。主な作業内容をお聞きしたところ、「果樹は明るいイメージで、体力に少しは自信があったつもりでしたが、以外に力仕事が多くて大変です。私は機械操作が苦手なんですけど、今は乗用草刈機も動かせるようになりました。」

同席された夫の話では、「開始当初は病害虫の発生で、宅配による販売も苦戦しました。ようやく生産量が増えてきたところに子供ができて、妻は2年間ほど畑に出れない時期がありましたが、将来のことを考え、二人でケンカしながら経営方針を話し合いました。」夫の情熱と梶原さんの落ち着いた考えがあって、これまでの経営がすすんできたようです。

● これからの夢、目標

次の就農者のために

「これからは加工商品にも取り組もうと思っています。法人化して雇用を入れているので、サラリーマンと同じぐらいの給料を出したい。」「自分たちも、周りの人に世話になって就農できたので、今度は自分たちが新しい就農希望者を応援したい。」と、新たな方針を進めているようです。



プロフィール

- 家族構成 / 夫、子2人
- 営農年数 / 約13年
- 耕作(経営)面積 / 2.5ha
- 販路 / 直売(宅配、直売所、加工契約)

就農を考えている女性へ ♡

就農してからは資金、販売、労力のことなど準備することはいっぱいです。また、子育てや地域の出事など、農業以外でも時間を取られます。経営が軌道にのるまでの生活費もできるだけ貯めておくことをオススメします。